

適正施設ガイドライン

【ミヤコタナゴ *Tanakia tanago*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 水温

基本的に屋内飼育を行い、その場合は未成魚・成魚は17℃～26℃、仔稚魚は17℃～21℃を目安とする。しかし、一日のうちに、温度変化が急激な場所、著しい高水温や低水温になる場所は飼育に適さない。どうしても飼育しなければならない場合は、クーラーやヒーターを設置して温度変化を少なくする必要がある。

1-2 設置場所

日照、気温、水温等の概日・概年リズムが阻害されないような配慮が必要。特に、小型水槽で飼育する場合は、日間での温度変化が著しい場所は望ましくない。

1-3 照明（日照、人工照明、照明時間長）

照明は自然光、人工照明（蛍光灯、LED 灯）のどちらでも良い。直射日光があたる場合は、水温が急激に変化する恐れがあるので注意しなければならない。また、光が強ければ、水槽内に藻類が発生しやすくなるので、メンテナンスの手間も考えなければならない。

1-4 水槽サイズ（面積、容積）

水槽の容積は魚の成長により、変更することが必要である。仔稚魚の場合、45cm水槽で100～200 個体ほど飼育できるが、成長に伴い個体数を減らすか、容積の大きな水槽に移動する必要がある。未成魚や成魚は90cm水槽で、10～15 個体ほどで飼育することが望ましいが、水質さえ保てば100～200 個体程度の同居は可能である。

1-5 構造、設備、水槽の数

未成魚・成魚：水槽の水底に砂利や細砂を用いる（底面濾過材との兼用可）。隠れ家は必要ない。ろ過は底面式で飼育可能である。

卵・仔稚魚：40～90cm程度の小型水槽を設置することで飼育可能

1-6 飼育水（水質）

河川水や井戸水または水道水の汲み置きを使用すること

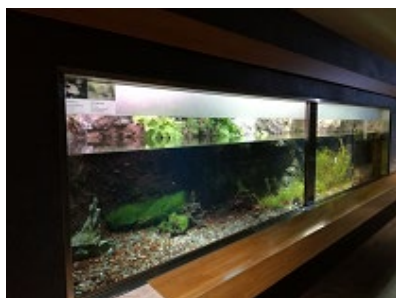


写真1 成魚飼育・繁殖水槽



写真2 成魚飼育水槽

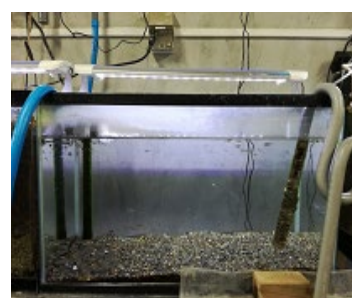


写真3 稚魚育成水槽